

2004年

5

月号

Stage Up

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
通巻 No. 130



「青葉きらめく」(町田市鶴川 武相荘)：佐藤 尚 画

- もくじ**
- 2 特集 インタビュー 大平貴之さん
 - 4 生涯学習ア・ラ・カルト
 - 6 ぐるーぷBOX / いま地域で学校で
 - 7 まち・ひと・多面体 / 暮らし百景 柳壇
 - 8 イベントパーク

発行・(財)川崎市生涯学習振興事業団
〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1
TEL 044 (733) 5560(代)/FAX 044 (739) 0085
TEL 044 (733) 5811 (ステージ・アップ直通) E-メール:stage-up@kpal.or.jp

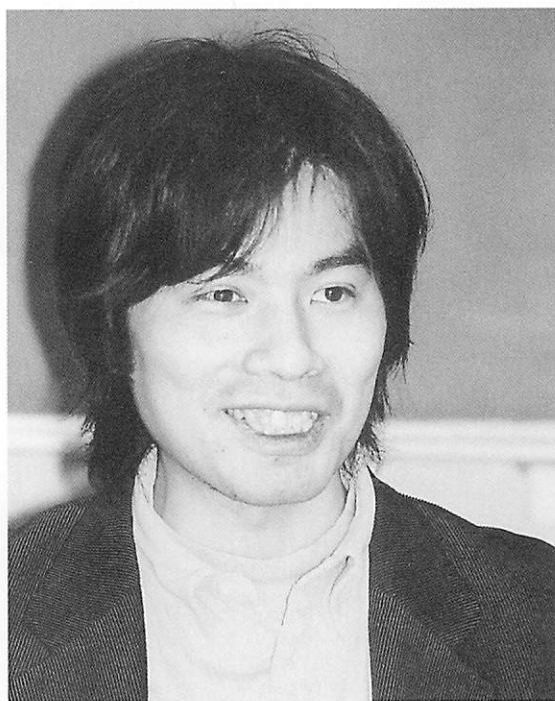
特集

インタビュー

プラネタリウム開発者 大平 貴之 さん

「ワァー」「きれい！」。川崎市青少年科学館のドームに映し出された410万個もの星の群れに、観客がどよめく。「これは300光年の星、あれは500光年…」。解説を聞きながら宇宙に横たわる悠久の時間に思いをはせ、またたく銀河の美しさに感嘆する。この、世界に類を見ないプラネタリウム投影機「メガスターⅡ」を個人で開発・製作したのが大平貴之さん。昨秋、川崎市の文化・芸術の分野で活躍した若手に贈られる「アゼリア輝賞」を受賞した。既存の投影機では数万個しか再現できなかった星を「メガスターⅡ」では410万個まで映し、今までにない奥行きとリアルな星空を体感させる。

大平さんは小学生の頃からプラネタリウムに興味をもち、青少年科学館に通っていた。それ以来プラネタリウムづくりに励み、追求し続け夢を実現させた。「科学館での体験と感動が出発点」と語る大平さんにこれまでの歩みと抱負を伺った。



銀河の彼方に夢を追う

——大平さんは小さい頃からものづくりが得意だったそうですが、プラネタリウムづくりのきっかけは何だったのですか。

大平 何がきっかけだったのか、はっきり覚えてないんです。紙工作が好きで、電車や飛行機なんかを作っていました。近くの文房具屋で夜光塗料を見つけ、これで星を作ろうと思いました。塗料を紙に塗ってオリオン座を作ってみました。部屋の壁に貼って明かりを消したら、とてもきれいでした。それが始まりだったかも知れませんね。それからプラネタリウムにも何回か足を運ぶようになりました。小学校6年生の時、校長先生が理科の先生で、おもしろい特別授業をしてくださいました。後で校長先生にプラネタリウムに興味をもっていると話したら「青少年科学館に若宮さんという人がいるから訪ねてみたら」と紹介されました。科学館を訪問し、一般の上映を見た後で若宮さんに会い、プラネタリウムのしくみについていろいろ質問しました。そうしたら機械の操作席に入れてくれ、ダイヤル操作を教えてくれたんです。「こうすれば動くんだよ」と実際に操作までさせてもらって、びっくりしました。小型のプラネタリウムを作ろうと思っていた頃だったので、この体験は僕にとって夜も眠れない程の感激でした。

——「メガスターⅡ」の完成に至るまでの歩みを振り返って心に残っていることはどんなことですか。

大平 いろいろなことがありましたね。ひと口では言い表せ

ません。製作する過程で、自分にとって一番しんどかった時期は、レンズ式のプラネタリウム「アストロライナー」を作っていた頃でしょうか。大学時代、レンズ式を作るために自分の専門外の電子工学や、高度な手法を勉強しました。その分野のことが全くわからないから、とにかく必死でしたね。そしてコンピュータ制御についても勉強して、いろんなことを体得しました。このことは自分自身の大きな変化であり、次へのステップになりました。

自分の活動に大きな影響を与えたのは「メガスター」の一号機ですね。これは、プラネタリウムとしてのポテンシャル(可能性・潜在能力)、位置付けの変化を自分に与えてくれました。2000年12月に東京の青山スパイラルホールで「メガスター」を初公開し170万個の星を映したのです。僕は「メガスターは星の数や天の川の再現率は、他の投影機とは比較にならないほど高い」という自負がありましたので、専門家はそれなりに評価してくれると予想していました。でも、天文学の知識がさほどない一般の方はどう受けとめるのか、全くわかりませんでした。そこでの反応は「美しさに感動した」「癒された」「星を見て無限の宇宙を感じた」というもので、思いのほか好評でした。音響関係の方とタイアップして上映したのですが、その方からも「すごいインスピレーション(ひらめき)を感じた」と言われました。自分が作ったもので人々を感動させたということに、僕自身が喜びを覚えました。この体験が後の活動に大きな影響を与えました。

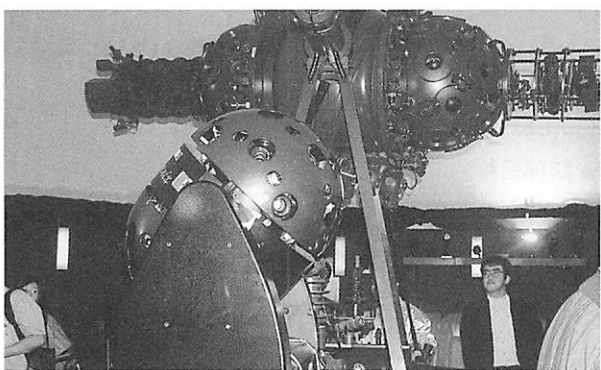
——「メガスター」の公開を契機に、プラネタリウムに対する考え方が少し変わってきたんですね。

大平 そうですね。私にとって作っている間は「メガスター」も単なる超高性能プラネタリウムです。プラネタリウムは、プラネタリウムとして使っていく。そのことは今も昔も変わっていませんが、プラネタリウムそのものに新しい側面を感じるようになりました。それはわかりやすく言えば「癒し」としての使い道です。「癒し」になりうるということに関しては評価もいただいたのですが、一方では、私自身が元から持っていたプラネタリウムの方向、それは宇宙シミュレータ的なもの、例えば、CG（コンピュータグラフィック）で火星探検するような番組を作ってみるとか、宇宙サイエンスを体感するとか、そういう構想を自分自身の中に持っています。アートの要素を取り入れて星空を表現し、感動空間をつくる方法と、天の川を銀河系の一部として言葉やコンピュータグラフィックで説明し宇宙の側面を紹介する方法があると思います。受け手が何を求めているかによって全く違ってくるとは思いますが、僕はどちらもやりたいし、二つの面がうまく融合できればいいと思っています。

——プラネタリウムづくりで壁にぶつかって、やめたいと思ったことはありませんか。

大平 「もうやめた」と思ったことはないですね。ただ、中だるみで手がつかないということはありませんが…。壁にぶち当たった時は、プラネタリウムに関しては若宮さんに、電気のことには隣に住んでいたエンジニアの方にいろいろ教えていただきました。学生時代は大学院生やアルバイト先の電気メーカーの方にも相談ののってもらいましたね。いろんな人がサポートしてくれたおかげで、自力では越えられない壁を乗り越えて、ここまでこられたのだと思います。

手前が「メガスターⅡ」、奥にある投影機と比べかなりコンパクト



——大平さんは小学生のころに抱いた夢を実現させ、比類なき投影機を個人で開発したわけですが、子どもたちが夢を実現させるために大切なことはなんだと思いますか。

大平 僕自身は今でも夢を実現させたという感覚はないのです。たどりついて「ここで終わり。よかったね」という心境にはならないんです。これから先のプラネタリウムのことを考えているからでしょうか。

子どもに対して「こうすればいいよ」ということはなかなか言いにくいですね。でも、大人に対しては「子どもが何かやりたいと言った時は縛らずにサポートして欲しい」ということを言いたいですね。私の両親は、理系でもないし特別の

専門性を持っていなかったから、子どもに対してレールを敷かず押し付けがなかった。息子のやっていることがわからないから、危険な化学薬品も買ってくれました。これはとても勇気のいることです。木造の家屋の中で火薬を混ぜロケットを作ったこともあります、それはとても危険です。私の場合は大きな事故はなかったのですが、大きな事故が起きる確率は高いですね。そう考えると、個人の家では抱えきれない実験の場、受け皿をどこに求めたらいいのでしょうか。僕は学校や公共施設がその受け皿になるといいと思います。学校の授業は決められた手順のことしかやらず、それ以外のことは一切やらせてくれません。でも、そうではなくて鉄筋コンクリートで防火設備が整い安全対策ができていく施設があれば、いろんなことが可能になる。子どもが安全に使えるような場があればいい。多少のリスクがあっても可能な範囲でやらせてくれるような環境があれば、もっと子どもは育つと思います。



青少年科学館プラネタリウムの操
作席で説明する大平さん(昨年11月)

——これから「メガスター」はどの方向に進んでいくのですか。投影できる星の数を増やしていくのでしょうか。

大平 星の数を増やすことにはそんなに興味はありません。むしろこの「メガスター」を何と組み合わせるかが直近の課題です。いま手がけているのはCGとの組み合わせです。CGは私の専門外なので「メガスター」にフィットするようなCGを誰かに作ってもらわないとならないのですが、今後どの方向に進むのか、自分でもよくわかっていないのです。振り返ってみると、今までも自分のはっきりした方向性があった進んできたというよりも、誰かの影響を受けて軌道を変えてここまで来たという感じです。だからこの先の出会いが自分をどこに導いてくれるのか、自分でもよくわからないのです。ひとつ言えるのは「メガスター」で人々の期待に添うようなことができればいいなと思っています。僕は個人の費用と裁量で作っているから基本的にはしぼりがありません。そのしぼりのなさを生かして、プラネタリウムの実験的試みをやっているいろいろな方面にトライしていきたいと思っています。

大平 貴之さん (おおひら・たかゆき)

1970年川崎生まれ。小学生の時に夜光塗料を塗った紙を部屋に貼り付けて星空を再現。以後プラネタリウムづくりに取り組む。大学生時代の91年、レンズ式プラネタリウム「アストロライナー」を完成。各地で上映され好評を博す。96年、電機メーカーへ就職後も会社勤務の傍ら製作を続ける。98年、170万個の星を投影でき、重さわずか30kgの移動式プラネタリウム「メガスター」を公開。2003年、星の数を410万個に増やすなどの機能強化を施した新型プラネタリウム「メガスターⅡ」を完成。川崎市の文化・芸術などの分野で功績のあった若手に送られる「アゼリア輝賞」を受賞。電機メーカーを退職しフリーとなる。多摩区在住。

生涯学習ア

●アカデミー●

かわさき市民アカデミーでは、春と秋に会員や聴講生を募集する講座のほかに、市民対象の公開講座を随時開催しています。今回は、3月10日に開かれた「川崎学サロン」と、13日に行われた「かわさき市民アカデミー修了式記念講演」について、参加された方々の感想を紹介します。

川崎学サロン「大江戸マルチ人間池上幸豊の巻」

03ことばと映像 林 朝子

講演の主人公池上幸豊は、祖父幸弘の代に池上台地から大師河原へ移住した名主で、江戸後期の殖産興業家です。新田開発、製糖、海苔づくり、果樹栽培、製紙等あらゆる事業を手がけました。川崎に梨や柿が豊富なのも頷けます。8代将軍吉宗の時代に生まれて81歳まで生きた長寿の人でもありました。

幸豊が開発した新田を教えるだけでも大変な数で大師河原、大嶋村、砂村新田、塩浜、池上新田などで、なかでも池上新田は何回も暴風雨の襲来で苦勞をしたようです。

甘蔗かんしょの栽培、製糖の工夫についてもいろんな場所に廻村伝法まわりのりをしています。また、江戸の文人や権力者田沼意次たぬまを始めとする人脈の広さにも驚かされます。和歌の嗜みたしなもあり、本当の意味でマルチ人間であったと感心させられました。

講師の市民ミュージアム望月一樹先生に開発と製糖に関するノウハウは何も残さなかったことについて質問したところ、「こうした多くの開発や製造に関しては、一子相伝が慣習で、その方法は口伝によっていたから」とお答えをいただきました。この次もまた、面白い講演を期待しております。

修了式記念講演「テレビ50年」によせて

02日本歴史 金井紀久子

聴講生と会員で3年、とりあえず修了することができました。講師の先生方や、アカデミースタッフの皆様方のおかげ

と深く感謝しております。第2部天野祐吉氏の「テレビ50年」はとても面白く拝聴させていただきました。戦後の社会でテレビというもの果たしてきた役割について、もっと辛口のご発言があるのかと思っていたのですが、意外に肯定的な見方をなさっておいででびっくりしました。

テレビというのは、現場へ行ってその状況を映し出す。その中で、見せようと思わなかったことまで映し出してしまふようなところがあり、意識的に見ていると思わぬ発見があって面白い。アナウンサーの表情や、映像の片隅にちらりと映ってしまったものが、その問題の裏にあるものを明らかにしてしまうことがある、というご指摘はとても説得力があるものでした。ふだん何ということなく見過ごしてしまうテレビでしたが、頭の隅にそういう考え方も入れておくようにしたいものです。

ただもう少し時間があれば、意図的に作られた映像を真実と思込こまされるようなことはないのか、テレビの持つ危険な側面についても伺いたかったと思いました。

日常の講座でも、時々にかかれた講演会でも、どれも大変面白くて気持ちがわくわくしてくるような内容でした。これからもぜひ学びの場に参加させていただきたいと思います。



●まなぶ●

パソコンセミナー 受講者募集

- ◆パソコン入門◆対象：パソコン初心者の方
パソコンの基本操作、文字入力、インターネット、e-mail
- ◆ステップアップ◆対象：文字入力・マウス操作のできる方
Windowsの応用操作、WORD・EXCELの基礎、インターネット、e-mailのより便利な利用方法。
- ◆WORD初級◆対象：Windowsの基本・マウス操作のできる方
WORDの基本操作、文書の作成、印刷、簡単な表作成等。
- ◆EXCEL初級◆対象：Windowsの基本・マウス操作のできる方
EXCELの基本操作、計算式の入力、表や罫線等の編集。
- ◆WORD中級◆対象：WORDの基本操作のできる方
WORDの様々な書式設定と編集機能、図表作成の応用。
- ◆EXCEL中級◆対象：EXCELの基本操作のできる方
表作成の応用、データベース、集計、グラフ作成、よく使う関数。

★講座日程

	開催日	コース	講座No	申込締切日	受講料(円)
6月	2(水)・3(木)	パソコン入門	6-A	5/12	13,000
	7(月)・8(火)	パソコンステップアップ	6-B	5/17	13,000
	16(水)	WORD初級	6-C	5/26	6,500
	17(木)	EXCEL初級	6-D	5/27	6,500
	19(土)・26(土)	WORD中級	6-E	5/29	13,000
	28(月)・29(火)	EXCEL中級	6-F	6/7	13,000

- ★受講時間…9時半～16時半(昼休憩1時間あり)定員は各15人。
- ★会場・申し込み…はがき・Fax・電話で。第2希望までの講座No.、〒、住所、氏名(ふりがな)、☎、Fax、年齢、受講目的を明記。
〒211-0064 中原区今井南町514-1生涯学習プラザ内
学習推進室 パソコンセミナー係

問い合わせ 学習推進室 ☎044(733)5894/ Fax(739)0085

ラ・カルト

●はぐくむ●

学校プール開放「安全講習会」開催

あなたも“市民救命士”に！

市内の小・中学校、養護学校では夏休みの期間、校区内の児童・生徒を中心とした青少年団体を対象に、プールを開放します。

学校プールの開放に伴い、プール管理と事故防止、安全指導と救命救急法の習得を目的として、下記の日程で講習会を開催します。対象はプール開放指導員・監視員、利用団体の指導者、学校施設開放関係者、プールの安全に関心のある方などです。修了者には川崎市消防局から「市民救命士」の認定証が授与されます。

学校プールの利用方法や安全講習会の受講については、各学校（学校施設開放運営委員会）、または学習推進室にお問い合わせください。

★「安全講習会」の日程と会場★

- 6月21日(月) 9時～15時半：新百合21ビルB2ホール
(小田急線新百合ヶ丘駅徒歩1分)
- 6月22日(火) 9時～15時半：教育会館 大会議室
(JR南武線向河原駅徒歩3分)

問い合わせ 学習推進室 ☎044(733)5893

●さがす●

ふれあいネット(情報提供)の利用状況

次表は、川崎市公共施設利用予約システム「ふれあいネット“情報の提供”」の学習情報の主なものを、15年度に皆様が検索された件数です。

施設情報	115,101件
見学情報	2,833件
講座・催し物情報	10,722件
団体・グループ情報	7,157件
指導者・人材情報	3,151件
視聴覚教材情報	6,258件
電子掲示板	14,988件

さらに利用しやすいように学習情報の収集に努めています。特に「団体・グループ情報」と「指導者・人材情報」については、皆様から多くの情報を提供していただくことにより、内容の充実を図りたいと考えておりますので、是非ご協力くださいますようお願いいたします。

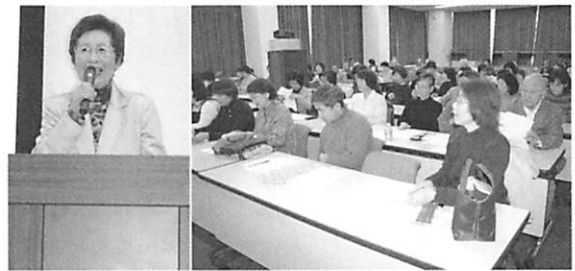
問い合わせ 学習情報室 ☎044(233)6250

アカデミーと色彩

広い知識生かし美術講座を開催

棚橋 恵津子さん

かわさき市民アカデミーの修了生が、学んだことを生かして社会貢献しようとして1996年に設立した組織「かわさき市民フロンティア」には、さまざまな知識や特技を持った人がたくさんいます。その中の一人、棚橋恵津子さんは、1993年にかわさき市民アカデミーの93美術コースに入学。その後フロンティアの会員として「美術講座」の講師を6年間務



めています。この講座は毎回80人を超す受講申し込みがあるほどの人気で、大半がリピーターです。棚橋さんが美術を学び始めたのは約30年前。仏教美術の同好会で学び美術への憧憬が深まり東洋美術・西洋美術と幅広く勉強しました。各国の美術館や教会を何度も訪れては写真を撮り、スライドに起し資料として何千枚も収蔵しています。

講座の魅力は、なんといっても棚橋さんのユーモアを交えたわかりやすい解説です。歯切れのいい口調で、描かれている花や動物の意味、時代背景などを丁寧に説明します。観光ツアーでは鑑賞できない作品や日本では見られない作品がスライドで映し出されると、受講生から歓声があがります。1時間半の講座があっという間に過ぎてしまいます。

棚橋さんは「プロでもなく力不足の私がこのように皆様の前で講義をしていいのだろうか、不安と疑問の6年余りでしたが、最初から現在も聞いて頂く方々には感謝とともにとても励まされます。何とか良いお話をしたいとの一念で、自分も学び続けています」と話しています。

2年前から、美術講座と並行して「文化財を訪ねる会」も開講しています。関東周辺の文化財をバスでまわり、個人では決して拝観できない秘仏に出会っています。「棚橋さんの解説で仏像や建造物の作風、時代が少しはわかるようになり、お寺の見方が変わりました」という参加者の声が聞かれました。

(かわさき市民フロンティア 清水素子 記)

このコーナーは「かわさき市民アカデミー」の修了生による組織で地域貢献を目的とした「かわさき市民フロンティア」が担当します。

ぐるーぷBOX

変幻自在な「舞台芸」でボランティア

「宮前南京玉すだれ同好会」

「あ、さて、さて、さては南京玉すだれ、そーれ、これは不思議な玉すだれ」。音楽に合わせ口上によって、長さ約30センチの竹でできた56本のすだれを伸ばしたり、分けたりねじったりまた元に戻したり…。すだれを操り、魚釣り竿、鳥居、昇る朝日などの形を描く練習に励んでいるのが「宮前南京玉すだれ同好会」（神田郁代代表、メンバー17人）のみなさん。宮前市民館主催の成人学校を修了し、2002年4月、同好会を発足させました。成人学校を企画した同館の小柳俊子さんは「自分も楽しめ、人にも楽しんでもらえ、ボランティア活動にも結びつけばと思い、取り上げてみました」と話していました。

同会は、地域のおまつりへの出演依頼の他、学校や高齢者施設から招かれることが多くなり、練習にも自然と熱が入ります。黒のズボンとシャツ、頭にバンダナ、そろいの半纏を身につけ「八木節」「ソーラン節」の曲にあわせ、玉すだれの糸と竹が絡まないように何度も繰り返していました。

代表の神田さんは「玉すだれは江戸時代に徳川幕府が庶民に奨励した大道芸のひとつです。玉すだれを開いたり、元に

戻したりすることが大変難しく、上手にできるまで半年くらいはかかりますね。舞台芸なのできちんとそろった方がきれいなのですが、一人ひとりが楽しんでやればそれが一番です」と語っています。

早春のある日、宮前区にある高齢者施設での活動に伺いました。舞台の上では、メンバーがにこやかな表情で同会のオリジナル演技や手品、踊りなどを披露。約60分の公演には、たくさんの拍手が送られていました。

◆活動日：第2・4木曜日 9時半～12時

◆場 所：宮前市民館か宮前こども文化センター

◆連絡先：☎(866)7676の佐藤さん



いま地域で学校で

「子育て広場」は地域の広場

—子育て広場ふるいちば—

昨年10月、元市立幼稚園の建物を利用した「子育て広場」が市内8ヵ所でオープンしました。この施設は、ゼロ歳から就学前の乳幼児とその保護者が気軽に集える場所です。今号では、「子育て広場」の先駆けとして、2001年10月に開所した「子育て広場ふるいちば」の活動を紹介します。

鹿島田駅から歩いて20分、古市場小学校の隣にある「子育て広場ふるいちば」は現在1日平均70組の親子が利用しています。ガラス窓の多い開放感あふれる建物には、



大小3つの部屋があり遊具や絵本などが置かれ、自由に遊ぶことができます。スタッフ3人が企画する「お楽しみタイム」や「講演会」「子育て相談」など、参加自由の催しも行われています。

ある日、プレイルームでは広場主催の「親子リフレッシュ体操」が行われていました。体育指導員のリードで20組の親子が体を動かしています。軽快な音楽に合わせて子どもを背中に乗せて歩いたり、手を持ってぐるぐる回らせたり、室内は親子の笑顔と歓声がいっぱいです。「広場に来ると自分もおおらかになれるし、子どもも飽きることなく楽しそう」「雨の日でも安心して遊べるので助かる」と利用者的好评です。

この広場のもう一つの特徴は、運営を支える約30人のボランティアの存在です。地域の方が、園芸・営繕・図書・手芸・託児などに分かれて活動しています。月に一度「ボランティア交流会」を開き、意見交換の場を設けています。交流会後は、草を刈る、花壇の手入れをする、遊具や扉にペンキを塗るなどの作業に励みます。施設内は、子ども達が安全に遊べるようにという配慮が行き届いていました。ボランティアの方は「子どもが好きなので関わりたかった」「皆が気持ち良く使えるためのお手伝いがしたかった」と話しています。

スタッフの山崎幸子さんは「さまざまな世代の人が関わりいいアイデアを出してください。皆さんの力は素晴らしいです」と語っていました。

まち・ひと・多面体

子どもの心に寄り添って

「かわさきチャイルドライン」

「チャイルドライン」とは、イギリス発祥の子ども専用電話で、「子どもがだれかと話したい時、電話でどんなことでも聴く」という活動です。日本では1998年、東京世田谷にチャイルドラインが設立されて以来しだいに広がり、現在全国に53の組織があります。その中の一つ「かわさきチャイルドライン」(岡崎チズル代表、会員20人)は、2002年10月、子どもの活動に関わる市民たちが集まり発足させました。毎週木曜の15時から22時まで専用電話(☎0120-874-262)を開設し、子どもの声に耳を傾けています。ここでは、問題解決のための助言をせず、子ども自身が答えを見つけられるよう「聴くこと・心に寄り添うこと」をモットーとしています。また、同ラインでは、子どもへの理解を深めるための講演会や、電話を受ける「受け手ボランティア養成講座」を随時開催するなどの活動も行っています。2月下旬から3回連続で行われた講演会では「いじめとその背景」「不登校とひきこもり」「虐待問題と家族」などの今日的な問題を取り上げ、それぞれの専門家の話を聞きました。毎回30人ほどの参加があり「現代の子どもが置かれている状況を再認識した」「子



どもが自分らしく生きていけるよう、大人はどうサポートすべきか考えたい」という感想が寄せられたそうです。

5月には「子どもの日チャイルドライン」として5日から11日までの1週間、全国一斉フリーダイヤルで18歳までの子どもたちの話を聴きます。番号は☎0120-7-26266です。代表の岡崎さんは「電話の内容は楽しいものから深刻なものまでさまざまです。子どもたちの状況をプライバシーに配慮しながら社会に届けていくこともチャイルドラインの役目だと思っています」と話していました。同ラインの運営は会費や寄付でまかなわれています。問い合わせは☎・Fax044(954) 3648 岡崎さん。

■寄付受け付け…1口1000円。郵便振替番号00220-3-75147
加入者名「かわさきチャイルドライン」

くらし百景



スリーエスの会(川柳)

- | | |
|------------------|-------|
| 不器用で曲がった道は歩けない | 浅野 和義 |
| 親切な言葉どこかで傷に触れ | 阿部 尚三 |
| 優しさは無言の背中にじみ出る | 阿部 乃里 |
| この頃は胸より腹が競い勝ち | 石島ひろ子 |
| 無記名に本心を書くアンケート | 浦野 昭志 |
| 酔うほどに本音のトビラ軋み出す | 大島三四朗 |
| 国技でも綱は異人に明け渡し | 長田ただし |
| 江戸めぐり横町入り路地を抜け | 加藤太美治 |
| 呆けの芽を歩け歩けで退治する | 小林久美子 |
| 目標が無くて有りそな顔で生き | 小室 吟風 |
| あの出会いすべてを変えて恋となる | 笹子喜久代 |
| 上品な人の隣で胸を張る | 佐藤佐代子 |
| ミヤゲ店ばかりが目立つ案内図 | 柴 友男 |
| 有難いお経我慢の膝が泣く | 塩沢 ひで |
| 神童の頃は優しい母だった | 中村 泰竜 |
| もう飲まぬトイレで誓う二日酔い | 野村よしじ |
| ピンボケの鏡わたしの味方する | 藤生 節子 |
| 定年後ねずみを取らぬ猫を真似 | 宮川おさむ |
| 打ち解けて心の窓を押し開く | 室伏きみお |

※川柳スリーエスの会は発足して八年目になります。中原市民館で毎月第二水曜日、午後二時から清水潮華先生(川柳みちしお吟社会長)のご指導の下約二十名が集まり、楽しく人間模様を詠んでいます。関心のある方の参加を歓迎します。

☎(七三)八九〇四 中村

情報コーナー イベントパーク 講座・コンサート他

●麻生シャンソンフェスティバル～ユニセフ チャリティコンサート

5月29日(土)17時開演、麻生文化センター。出演はゲストのベギー・葉山＝写真＝と17人の仲間達。曲目は「セシボン」「パリパナム」「モンパパ」他。指定席2500円、自由席2000円。☎(987)2675の熊崎さん。



●ランチタイムコンサート

5月19日(水)12時15分開演、市役所第3庁舎ロビー。出演は緑川英徳(アルトサクソ)、竹内直・岡 淳(テナーサクソ)井上“J U J U”博之(フルート)。曲目は「シェルプールの雨傘」・「こきりこぶし」他。☎(520)0100の文化財団。

●狂言の会～大蔵流「山本家三兄弟と共に」

5月23日(日)14時開演、麻生文化センター。曲目は「附子」^{ぶす}「惣八」^{おんや}「御田」他。S席5000円、A席4000円、B席3000円、学生2500円。☎・Fax042(791)2345の宮川さん。

●合唱団「虹」第2回コンサート～虹いろ音楽館

5月23日(日)14時開演、川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)。1部はオペラハイライト、2部は「映画音楽」セレクション。出演は小林ちほ(ソプラノ) 笹子まさえ(メゾソプラノ) 中嶋克彦(テノール) 他。入場料1000円。☎(755)0890「さえの会」事務局の木村さん。

●ビッグバンドコンサート

5月22日(土)18時半開演、川崎市民プラザ。演奏は東京キューバンボーイズ Jr。定員210人。前売り券2500円(軽食つき)。☎プラザフロントへ。☎(888)3131。

●川崎市民プラザダンスパーティー

6月26日(土)18時半、屋内広場。生バンドによるダンスパーティー。演奏は東京キューバンボーイズ Jr。前売り券2500円でワンドリンク付き。☎5月1日(土)からプラザフロントで発売。☎(888)3131。

●2004あさおサークル展

5月15日(土)、16日(日)。美術展は5月14日(金)～19日(水)(17日(月)は休館日)。会場は麻生市民館。麻生市民館を拠点として生涯学習活動を行っているサークルが日頃の活動を発表。☎(954)1181麻生市民館サークル連絡会の本玉さん。

●日本女子大学公開講座

5月開講の「幕末・維新期の歴史資料を読む」「中国文化・思想講座」「楽しい押し花アート」ほかの受講生を募集。場所は同大学西生田生涯学習センター。希望者には講座のパンフレットを無料で送付。詳細は☎(945)3323。

●玉川大学公開講座

5月開講の「書道・漢字」「納得の写真を撮る」「宗家に学ぶ煎茶」「俳句を楽しむ」などの受講生を募集。詳細は☎042(739)8895の同大学継続学習センター。

●ままとんきっず5月の講座①ビーズ教室②歌の広場

①は5月20日(木)21日(金)、10時15分。場所は多摩区菅稲田堤NPO法人「ままとんきっず」事務所。定員10人。参加費、材料費共500円から。木曜日は保育あり。②は5月14日(金)、10時半。歌と演奏は二期会マミーシンガーズ。参加費500円。☎(945)8661。

●ミニ画廊スナック「琴」①中川写真工房②アクリル画

①5月1日(土)～15日(土)まで、中川高一の風景他の作品。②5月15日(土)～29日(土)まで、佐藤・神の生物画。作品の展示は無料。場所は幸区鹿島田。☎(544)0507。

●街角に咲いた芸術～世紀末フランスの華麗なポスター

5月30日(日)まで、9時半～17時。川崎市市民ミュージアム。休館日は月曜(5月3日(月)は開館)・5月6日(水)。入場料は一般700円、学生400円、65歳以上・中学生以下無料。☎(754)4500。

●東芝科学館実験教室

①アトム工房②GEMS探検隊③ガリレオ工房

①5月8日(土)、10時と13時半。対象は小学校1年生以上の親子25組。②5月15日(土)、10時から小学校1年～3年生30人。13時半からは小学校4年～中学生30人。③5月22日(土)10時と13時半。対象は小学校4年生以上50人。①②③とも教材費500円。☎(549)2200の東芝科学館。

●水辺の楽校とどろき校「春の安全教室とカヌー指導」

5月23日(日)10時～14時。場所は等々力河川敷。参加費1000円(保険料、指導料含む)。対象は幼稚園児から大人まで(小学校3年以下は保護者同伴)。持ち物(お弁当・水に濡れてもよい服装・替え靴)。先着50組。☎5月1日(土)から。☎・Fax(733)3539水辺の楽校とどろき校の鈴木さん。

編集室から

■「イベントパーク」欄への掲載を希望される方へ。

情報コーナー「イベントパーク」では、学習・文化活動をしている皆さんのお知らせを無料で掲載します。団体・個人が主催するイベント、講座、学習発表会、作品展、コンサート、会員募集などの情報をお寄せください。締め切りは、催しもの開催月(事前申し込みがある場合は、申し込み開始日)の2カ月前の末日です。例えば7月に開催するイベントの場合、5月末が情報の締め切りとなります。詳細はお問い合わせください。

■表紙が版画から水彩画に変わりました。今号から一年間、横浜市青葉区在住で、元川崎市教育委員会指導主事(美術)、元川崎市立総合科学高等学校長等として活躍された佐藤尚さんの作品を掲載します。どうぞお楽しみに。

■新コーナー「アカデミーひと才彩」(5ページ)が始まりました。10回シリーズで掲載します。このコーナーでは、かわさき市民アカデミーに学び、地域社会の中で活躍している人や団体にスポットをあてて紹介します。ご期待ください。